リヤド案内

平成２２年４月

在サウジアラビア日本国大使館

サウジアラビア王国概要

国名：	サウジアラビア王国（Kingdom of Saudi Arabia）
面積：	２１５万平方キロ（日本の約５．７倍）
人口：	約２，３６８万人（うち在留外国人は約６１４万人、年２．４％程度の人口増加率）
公用語：	アラビア語（他に一部で通用する外国語は英語）
独立年月日：	１９２７年5月２０日（アブドゥルアジーズ初代国王の国家統一）
国祭日：	９月２３日（建国記念日） （１９３２年同日、勅令により「サウジアラビア王国」の建国宣言）
主要都市：	リヤド（首都）、ジッダ（西部）、メッカ（聖地）、メディナ（聖地）、ダンマン（東部州）、アブハ（南西部）
政体：	欧米諸国で言われるところの「議会」・「憲法」はないが諮問評議会及び統治基本法がそれぞれ国会・憲法に近い機能を持つとの議論もある。国王が政治上の実権も有している君主制である。
国家元首：	二聖モスクの守護者 アブドッラー・ビン・アブドゥルアジーズ・アール＝サウード国王 （Custodian of The Two Holy Mosques、King Abdullah Bin Abdulaziz Al-Saud、１９２３年生誕、２００５年８月２日即位）（首相兼任）
宗教：	イスラム教（スンニ派に属するワッハーブ派と他称）
通貨：	サウジ・リヤル（ＳＲ）、1ＵＳ＄＝３．７５ＳＲ １ＳＲ＝約２４円（２０１０年３月現在）
在留邦人：	８５０名 (在サウジアラビア大使館管轄４８７名／２０１０年３月現在) (在ジッダ総領事館管轄３９３名／２００９年１０月現在)
邦系企業：	８２企業（２００８年9月現在、在サウジアラビア大使館管轄）

御滞在中の注意事項

項　　　目	サウジアラビア（リヤド）
時　　　差	日本より６時間遅れ。（リヤドの正午が日本の午後６時）
気　　　候	内陸にあるため、典型的な大陸性砂漠気候で、一年間を通して乾燥している。
服　　　装	屋外では、薄手の服装が適当だが、室内は冷房が効きすぎている場合があるので、上着等を用意しておくと良い。男女を問わず、肌を露出する服装は避ける。男性は半袖可、短パン不可。特に女性は、外出時にアバヤ（女性の全身を覆う黒衣）着用が求められる。
健康上の留意点	高温による障害（熱中症）は長時間の野外滞在や運動で発生する。予防が重要で、水分と塩分の十分な補給（スポーツドリンクの摂取）及び炎天下での長時間の活動を避けること、また十分な休養をとることに留意する。紫外線予防も角膜、皮膚の障害を避ける上で重要で、サングラスの着用、日焼け止めの塗布が奨められる。
保健衛生	水道水の通常使用については衛生上の問題はないが、飲料水としてはミネラルウォーターの利用が望ましい。当地に特有の伝染病はない。また、生野菜を食べることも問題はない。乾燥のため鼻・のど・目・皮膚等を痛めやすい。
喫　　　煙	特段の制約はない。
治　　　安	数年前に大規模なテロが発生したが、現在は沈静化している。また、一般治安情勢は悪くない。**一般に街中での写真撮影は禁止（逮捕につながった事例あり）。特に空港の撮影は厳禁。**
言　　　語	アラビア語が公用語。ホテルやレストランでは英語が広く通じる。
宗教上の留意点	国民の大半はイスラム教の中でも特に戒律が厳しいワッハーブ派に属する。酒類・豚肉製品・女性の肌が露出している写真の載った雑誌等の持ち込みは厳禁。また、１日５回のお祈りの時間帯（季節により変動）には、**市内の公共施設、商業施設がほとんど閉まってしまうため**（約３０分間）、注意が必要である。 お祈りの時間の目安：１回目 04:18 頃、２回目 11:58 頃、３回目 15:26 頃、 （４月）　４回目 18:16 頃、５回目 19:46 頃
飲　　　酒	禁止されている。
換　金　率	１サウジリアル（ＳＲ）＝約２４円（２０１０年３月現在）
ｸﾚｼﾞｯﾄｶｰﾄﾞ	各ホテル、大型商店、レストラン等で、主要クレジットカードが使用可能。
チ　ッ　プ	特に必要はない。なお、ホテル、レストランでは１０％～１５％のサービス料が料金に加算される。
電　圧　等	コンセントは、次の４タイプが混在している。電圧も１１０Ｖと２４０Ｖの双方があるが１１０Ｖは少ない。周波数は６０Ｈｚである。電気カミソリ等は電池式を持参する方が便利。 Aタイプ　Bタイプ　BFタイプ　Cタイプ
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ	ジャックは日本と同一形式。日本国内使用のモデムも利用可。

１．リヤド小史

リヤドは、１８世紀末までナジド高原に多数散在する寒村の一つに過ぎず、当時は隣接するディライーヤが、第一次サウード王国の根拠地として繁栄し、この地方の拠点であった。このサウード王国は、１７４４年、ワッハーブ派の祖であるムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブが、当時ディライーヤの領主であり、同王国の初代首長であるムハンマド・イブン・サウードの全面的な支持、協力の下、宗教改革を始めたことで発展し、一方で、サウード家はこの宗教改革に乗じて勢力を拡大していった。

リヤドが繁栄したのは、１８１８年オスマン・トルコ皇帝の命を受けたエジプト軍の攻略により第１次サウード王国が崩壊し、ディライーヤが灰燼に帰し、ディライーヤに代わってサウード家の本拠となったためであり、以来ナジド地方の中心地として発展して来た。

その後、１９世紀半ば、リヤドに第二次サウード王国が建国されるが、同世紀末再びオスマン・トルコの支援をうけた北部のイブン・ラシード家の攻略によってサウード家支配は崩壊し、追放の憂き目を見る。

１９０２年、クウェートに亡命していたアブドゥル・アジーズ（サウジアラビア王国初代国王）は少数の手勢と共に、リヤドに潜入、マスマク城にいたラシード家の総督アジュラーンを殺害、リヤド奪回に成功し、第三次サウード王国を興した。アブドゥルアジーズ王はさらに、北部のハーイル、東部のハサ、南部のアシール、西部のヒジャーズの各地方を次々に支配下に置き、１９３２年国名を「サウジアラビア王国」と改め、今日のサウジアラビア王国が誕生した。ここに、リヤドは従来の一地方都市からアラビア半島の大部分を占める一大王国の首都となった。

アブドゥル・アジーズ初代国王の時代に、最初の油田が発掘されて以来、サウジアラビア王国は、急速な近代化を迎えることになり、リヤドも大きな発展を遂げた。

現在、サウジアラビア王国が世界最大の原油埋蔵量を誇る大産油国としてその政治的、経済的影響力を増大させてきており、リヤドは今や世界各国の首脳が頻繁に来訪する名実ともに主要国際都市となっている。

２．気候

リヤドは、アラビア湾まで約５００Ｋｍ、紅海まで約１０００Ｋｍの内陸にあるため、典型的な大陸性砂漠気候で、気温の年較差・日較差が大きく、乾燥している。１０月から３月にかけて比較的涼しい季節に雨も降り、年に数日、数時間の集中豪雨に見舞われることがある。その他の季節に降ることは、ほとんど皆無。敢えて４シーズンに分けてみれば、３～４月中旬が春、４月中旬～９月が夏、１０～１１月が秋、１２月～２月が冬。春先には、砂嵐に見舞われることがある。

リヤド

月　　　　別	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
平均気温（℃）	14.3	18.6	20.5	27.9	33.0	35.7	35.8	36.7	33.3	28.3	21.9	15.4
最高気温（℃）	29.2	34.5	35.5	41.8	45.0	46.5	46.1	46.0	45.6	39.1	36.7	29.5
最低気温（℃）	1.0	7.6	6.0	12.4	20.5	22.6	24.0	25.0	18.0	16.3	6.3	3.2
平均湿度（%）	48	47	28	17	10	8	9	10	14	15	28	38
最高湿度（%）	97	95	89	55	40	21	19	63	37	59	82	92
最低湿度（%）	10	15	4	3	1	2	3	3	4	4	5	6
降雨量(mm)	24.5	6.8	6.8	0	0	0	0	0	0	0	0	1.1

ジッダ

月　　　　別	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
平均気温（℃）	32.4	25.8	25.5	27.6	30.7	30.6	32.7	33.2	32.0	29.9	27.4	25.3
最高気温（℃）	34.5	35.0	38.0	40.0	44.0	39.4	43.0	43.0	39.0	39.9	46.4	38.0
最低気温（℃）	14.0	18.2	15.0	18.0	21.0	22.0	24.0	24.0	24.0	21.0	17.4	15.0
平均湿度（%）	68	73	60	58	65	60	53	65	71	72	65	64
最高湿度（%）	97	97	96	100	97	97	95	96	97	100	98	97
最低湿度（%）	25	37	17	17	29	24	18	23	38	9	15	13
降雨量(mm)	70.9	16	5	0	0	0	0	0	0	0	0	19

（出所：BBC Weather Centre）

３．宗教上の日課・行事

（1）礼拝（サラー）

　イスラムの五行の一つとして日々の礼拝があり、１日５回の祈りの時間がもうけられている。祈りの時間帯は季節によって変動し、地域によっても異なる。例えばリヤドではジッダよりも約３０分早い。礼拝時間は新聞に毎日記載されている。礼拝の時間を告げる合図（アザーン）がモスクから流れると、スーパーマーケット、銀行、レストラン等全ての店舗が約３０分間すべて閉店となる。（尚、レストラン及び一部のスーパーマーケットでは、礼拝時間中、店内に留まることを認めている。）従って、買物等はお祈りの時間を念頭において効率良く済ませることが必要である。

リヤドに於ける礼拝時間の目安

	夏　　季	冬　　季
暁の礼拝（Al-Fajr）	０３：３０～	０５：００～
正午の礼拝（Al-Dhuhr）	１２：００～	１１：３５～
午後の礼拝（Al-Asr）	１５：００～	１４：３０～
日没の礼拝（Al-Maghrib）	１８：４０～	１７：００～
夜の礼拝（AL-Ishah）	２０：００～	１８：３０～

（２）休日

イスラム（ヒジュラ）暦を基準としているので、官庁は木、金曜日が休み。その他の大半のオフィス等は木曜日が半日または１日休み、金曜日は完全な休みとなっている。

（３）祝・祭日

当国の祝・祭日はイスラムに関するもので、ラマダン（断食）月後の約１週間、ハッジ（巡礼）月の約１０日間。これらはイスラム暦に基づいているため、太陽暦では毎年約１１日ずつ早くなる。２００５年からは建国記念日（９月２３日）も祝日に指定された。

（４）断食

イスラム暦第９月（ラマダン）に行うもので一ヶ月間（２０１０年は８月１１日頃～９月９日頃）が断食月と決められている。断食は毎日、日の出から日没まで一切の食物を断つもので、イスラム教徒以外の滞在者も日中の屋外での飲食、喫煙は一切禁止。一般にこの期間中の全ての機関・施設・店舗の日中の活動は大幅にスローダウンし、逆に日没後多くの店が開店し夜遅くまで賑わっている。

（５）ハッジ（巡礼）

巡礼はイスラム暦第１２月（２０１０年は１１月１３日～１８日）に行われる宗教行事で、毎年２００万人を超す巡礼者がメッカ、メディナの両イスラム聖地を訪れる。なお、巡礼月後２～３ヵ月は不法滞在者に対する取締りが厳しくなり、身分を証明する書類を所持していなければ拘禁される事があるので、外出の際はイカーマ等の身分証明書を必ず携行する必要がある。

４．出入国

（１）入国

Ａ．査　証

　査証の事前取得が必要。また、入国する際には入国カードが必要だが、サウジ航空の国際線の場合、機内で配られないこともあるので、フライトアテンダントに依頼する。

Ｂ．通　関

　通関時の検査は極めて厳しい。イスラム教の戒律に従い、アルコール類、信仰の対象となる偶像、ポルノ雑誌類（一般の雑誌でも水着やヌード写真があれば不可）、豚肉などの持ち込みは禁止。また、仮にアルコール類ではなくとも、瓶の形をしたものが入っていれば、荷物を開けるように言われたり、同様に、音楽ＣＤであっても、ポルノＤＶＤでないことを確認するために、１枚１枚チェックされたりすることもある。禁制品が見つかった場合には、没収及び始末書に留まらず、投獄の後、国外追放される場合もあり得る。

（２）出　　国

　出国の際の検査は、入国の際と同様厳しい。出国カードが必要。チェックインカウンターに行く前に機内預け荷物のＸ線検査がある。また、パスポートコントロールの後に機内持ち込み荷物のＸ線検査がある。

※キング・ハーリド国際空港案内

　キング・ハーリド国際空港がリヤドの空の玄関。この空港は１９８３年１２月に開港され、総工費３２億ドル、２２５平方キロメートルに４つの一般用ターミナル及び１つの王室専用ターミナルがある。一般旅客ターミナルのうち、現在ターミナル１（外国航空会社発着）、ターミナル２（サウジアラビア航空の国際線発着）、及びターミナル３（国内線発着）が使用されている。

５．両替

　リヤド市内では、日本円の両替はできない。ドルやユーロは市内の銀行やホテルで両替できるが、ホテルでの両替は、多少レートが悪い。また、空港でも両替は出来るが、サウジリアル（ＳＲ）からドルやユーロ等への両替は、ＳＲ５００以上でないと受け付けても

らえない場合がある。トラベラーズチェックは、リヤド市内ではほとんど利用出来ないが、銀行にて現金化はできる。

６．電話

公衆電話は、１０、５０、１００ハララ・コイン及び電話カードが使用できる。日本への国際電話は、ＳＲ２．７／分程度。また、携帯電話をレンタルすることも出来る。レンタル料は、ＳＲ１１５／日程度。日本への国際電話は、ＳＲ２．６／分で、夜間は割引なる。国内通話は、携帯電話相手で、ＳＲ０．４／分、固定電話相手で、ＳＲ０．１／分程度。電話のかけ方は以下の通り。

・国内通話（固定電話）　→　地域番号（リヤド：０１）＋相手の電話番号
例：日本大使館　０１－４８８－１１００
（携帯電話）　→　相手の携帯電話番号
例：日本大使館員の携帯電話　０５０－×××－××××
・国際電話（固定電話）　→　００＋国番号＋地域番号（0をとる）＋相手の電話番号
例：本省　００８１－３－３５８０－３３１１
（携帯電話）　→　００＋国番号＋相手の携帯電話番号（0をとる）
例：日本国内の携帯電話　００８１－９０－××××－××××

７．郵便

一般郵便は、国内、国外とも利用できる。市内にポストがあるが、定期的に収集されているか不明なので、直接郵便局へ持って行った方がよい。料金は、以下の通り。

	国内	ＧＣＣ諸国	その他
葉書	国内：ＳＲ１／枚	ＧＣＣ諸国：ＳＲ２／枚	その他：ＳＲ３／枚
封筒（～５０ｇ）	国内：ＳＲ２／枚	ＧＣＣ諸国：ＳＲ３／枚	その他：ＳＲ４／枚

封筒の場合は、重量が増加するのに伴い料金も上がる。日本へは通常１週間程度で届く。また、ＥＭＳも利用できる。料金は以下の通り。

	国内	ＧＣＣ諸国	その他
～５００ｇ	国内：ＳＲ５０／個	ＧＣＣ諸国：ＳＲ６０／個	その他：ＳＲ１３０／個
５００ｇ毎	国内：＋ＳＲ８	ＧＣＣ諸国：＋ＳＲ１０	その他：＋ＳＲ２０

８．交通

（1）航空機

リヤドをはじめ、現在２０以上の国内空港がある。国際線は、主にリヤド、ジッダ及びダンマンに乗り入れている。チェックインは、国際線が出発２時間前、国内線が出発１時

間前までに行うのが望ましい。通常リコンファームは不要だが、航空会社の都合で一方的に予約がキャンセルされることもあるので、万が一のためリコンファームはしておく方がよい。主な航空会社の電話番号は以下の通り。※は、市内局番（０１）不要。

・サウジ航空（ＳＶ）　℡：４８８－４４４４
・エアーフランス航空（ＡＦ）　℡：８００－１２４－９９９５※
・ブリティッシュミットランド航空（ＢＤ）　℡：２１１－８０１４
・ルフトハンザ航空（ＬＨ）　℡：４６３－２００４
・キャセイパスィフィック航空（ＣＸ）　℡：４７９－３２３２
・エミレーツ航空（ＥＫ）　℡：４８６－７０００
・エッチハッド航空（ＥＹ）　℡：４７７－４２２２
・カタール航空（ＱＲ）　℡：２１８－０４０４
・ガルフ航空（ＧＦ）　℡：４６２－６６６６
・イエメン航空（ＩＹ）　℡：４０３－９２４８
・クウェイト航空（ＫＵ）　℡：４６４－０５１５
・ロイヤルヨルダン航空（ＲＪ）　℡：２１８―０８５０
・トルコ航空（ＴＫ）　℡：４６３－１６００
・エジプト航空（ＭＳ）　℡：９２－００－２２２９２※
・ミドルイースト航空（ＭＥ）　℡：４６５－６６００

（２）鉄道

リヤド～ダンマン間にあるのみで、通称「ダンマン鉄道」。格安の移動機関として、出稼ぎ労働者等で混んでいる。１日４本あって、リヤド～ダンマン間の所要時間は４～５時間かかる。料金は、アルリハブクラスがＳＲ１３５、ファーストクラスがＳＲ７５、ノーマルクラスがＳＲ６０。問い合わせはリヤド駅（電話４４８－００００）まで。リヤド駅は、リヤド市の南、旧市街地にある。英語を解すオペレーターは常駐していることになっているが、いない場合も多い。

（３）バス

主要都市及び市内にはバスのネットワークが発達しているが、利用者はほとんどインドやパキスタンからの出稼ぎ労働者であり、ルートが分かりにくく、利用は難しい。

（４）レンタカー

レンタカーは空港、一流ホテルのカウンター等で、HANCO、EUROPCAR、AVIS、BUDGET 等の

有名会社のものを、運転手付、なしのどちらでも借りられる。

（５）タクシー

　タクシーは白地の車体で屋根の上にＴＡＸＩと書かかれており、空港周辺の他、市内各所を走っている。システムは、日本のタクシーのようにメーター制の場合もあるが、メーターがついてない場合もある。メーターがついていない場合は、乗る前に料金を確認あるいは、交渉する必要がある。流しのタクシーを拾うことも電話で呼び出すことも可能。運転手が出稼ぎ労働者の場合は比較的英語が通じるが、サウジ人の運転手だと外国語が全く通じない場合がある。主な料金の目安は下記を参照。

市内←→外交団地区(Diplomatic Quarter)	２０～３０ＳＲ
市内←→空港	６０～７０ＳＲ

９．ホテル

（１）ホテルアルコザマ（ Hotel Al Khozama ）

℡：４６５－４６５０　FAX：４６４－８５７６

ファイサリアタワー近く

（２）シェラトンリヤド（ Sheraton Riyadh ）

℡：４５４－３３００　FAX：４５４－１８８９

キングダムタワー近く

（３）マリオット（ Marriot Riyadh ）

℡：４７７－９３００　FAX：４７７－９０８９

石油省近く

（４）インターコンチネンタルリヤド（ INTERCONTINENTAL RIYADH ）

℡：４６５－５０００　FAX：４６５－７８３３

内務省近く

（５）ラディソンサスホテル（ Radisson SAS Hotel ）

℡：４７９－１２３４　FAX：４７７－５３７３

旧空港道路沿い

（６）フォーシーズンズホテル（ FOUR SEASONS HOTEL ）

℡：２１１－５０００　FAX：２１１－５８８０

キングダムタワー下

（７）アルファイサリアホテル（ AL FAISALIAH HOTEL ）

℡：２７３－２０００　FAX：２７３－３００１

ファイサリアタワー下

１０．レストラン案内

（１）日本料理

Ａ．東京レストラン（ Tokyo Restaurant ） ℡：４６０－５６７２

ウルーバ通り沿い、金曜定休

（昼）12:30～14:30　（夜）18:30～23:00

Ｂ．将軍（ Shogun ） ℡：４７９－１２３４

ラディソンサスホテル 4th Floor、雰囲気がよい

（昼）12:00～15:30　（夜）19:00～23:00

（２）中華料理

Ａ．ミラージュ（ Mirage ） ℡：４８３－４２１６

ウルーバ通り沿い、日本式のテーブルあり、雰囲気がよい

（昼）13:00～15:00　（夜）17:00～23:00

Ｂ．ライライ（ 来来 ） ℡：４６５－１１８１

ホテルアルコザマの裏手、水曜、金曜の夜、木曜はビュッフェスタイル（ＳＲ６０）

（昼）12:00～15:00　（夜）18:00～24:00

（３）韓国料理

Ａ．コリアン・パレス（ 秘苑 ） ℡：４６４－５７５２

オレイヤ地区、木曜の夜はブッフェスタイル（ＳＲ９０）

（昼）11:00～15:00　（夜）17:00～23:00

（４）インド料理

Ａ．アヴァダ（ AVADAH DUM PUKHT ） ℡：４６５－４１０９

タハリア通り沿い、高級インド料理店

（昼）12:30～15:00　（夜）18:30～24:00

Ｂ．マルハバ（ MARHABA ） ℡：４７７－３４０４

オレイヤ通り沿い

（昼）12:00～15:30　（夜）18:30～24:00

（５）タイ＆フィリピン料理

Ａ．チェンマイ（ CHIANGMAI RESTAURANT ） ℡：４８３－３６９５

ウルーバ通り沿い

（昼）10:30～15:00（金曜は 12:30 から）　（夜）17:00～24:00

Ｂ．ヴィラ（ VILLA RESTAURANT ）　　　　　　　　　　℡：４８２－２７４９

ウルーバ通り沿い

（昼）11:00～14:30　（夜）17:00～23:00　（金曜は 12:30～23:00）

（６）イタリア料理

Ｃ．スパジオ（ SPAGIO ）　　　　　　　　　　℡：２１１－１８８８

キングダムタワー 77th Floor、要予約、眺めがよい

12:00～24:30　昼（13:00～16:00）はビュッフェスタイルもある

Ｅ．クリスタル・グリルルーム（ Cristal Grillroom ）　　　　　　　　　　℡：２７３－２２２２

アルファイサリアホテル内

（昼）13:00～16:00　（夜）20:00～23:30

Ｆ．ダ・ピーノ（ Da Pino ）　　　　　　　　　　℡：４６５－４６５０

アルコザマセンター 1st Floor

（昼）12:00～15:00　（夜）19:00～23:00

（７）フランス料理

Ａ．グローブ（ THE GLOBE ）　　　　　　　　　　℡：２７３－２２２２

ファイサリアタワー 34th Floor、要予約、眺めがよい

（昼）12:00～15:00　（ティー）16:00～19:00　（夜）20:00～24:30

Ｃ．フレンチ・コーナー（ FRENCH CORNER ）　　　　　　　　　　℡：４６４－５３２２

バッダーブ通り沿い

13:00～23:30

（８）アラビア料理

Ａ．ナジド・ヴィレッジ（ Najd Village ）　　　　　　　　　　℡：４６４－６５３０

タカソッシ通り沿い、金曜はファミリーのみ、アラブ式に座って食べる

12:30～24:00

Ｃ．アル・ナキール（ AL NAKHEEL ）　　　　℡：４６５－４６５０（内線：７６７４）

アルコザマセンター 7th Floor、ビュッフェスタイル、ファミリーセクションあり

（夜）19:30～24:00。※ただし土曜日は休み

Ｄ．グージー（ GOOZY ）　　　　　　　　　　℡：４７０－８５５６

アブダッラ通り沿い、ファミリーセクションあり

10:00～24:30、ファミリーセクションは 12:30～、市内に複数店舗あり

Ｆ．アッサラヤ・トルキッシュ（ ASSARAYA TURKISH ）　　　　℡：４６４－９３３６

トルコ料理、ファミリーセクションあり

２４時間営業

１１．視察先案内

（１）市内

Ａ．国立博物館　　　　　　　　　　　　　　　　　　　℡：４０２－９５００

金曜は 17 時から 23 時まで、土曜は 9 時から 12 時まで開館

開館時間　：　（午前）09:00～12:00　（午後）17:00～23:00

入館制限　：　日、月、水、木　→　（午前）男性　（午後）ファミリー

火　→　（午前）女性　（午後）男性

金　→　（午後）ファミリー

料金　：　ＳＲ１５

国立博物館は、１９０２年の初代国王アブドゥル・アジーズによるリヤド奪回１００周年を記念して、１９９９年にオープンした。（リヤド奪回の日は、イスラム歴で１３１９年１０月５日にあたり、１００年後の１４１９年１０月５日は、グレゴリウス歴で１９９９年１月２２日になる）

館内は広く、近代的な建物である。主に考古学、歴史の分野を中心に、８つのパビリオンからなっている。

Ｂ．ムラッバ・パレス　　℡：４０１－１９９９（キングアブドゥルアジズセンター）

土曜は終日閉館。

開館時間　：　18:00～21:00

夜はライトアップされる

初代国王のロールスロイス

ムラッバ・パレスの建設

アブドゥル・アジーズ初代国王は、１９０２年のリヤド入城後、マスマク城の修復と同時に新たなパレスの建設を開始した。これらのパレスは、１９１２年には完成したが、その後もアブドゥル・アジーズ初代国王は、マスマク城に居を構え、３０年間かけてアラビア半島統一の大事業を成し遂げた。アブドゥル・アジーズ初代国王が、ムラッバ・パレスへ遷居したのは１９３８年のことである。ムラッバ・パレスは、アブドゥル・アジーズ初

代国王の晩年にかけて再度修復された。晩年足腰が弱くなり、階段を上るのに支障をきたしはじめたアブドゥル・アジーズ初代国王のために設置されたエレベーターは、リヤドで初めてのものだった。

現在は、一般公開されている。隣接しているキングアブドゥルアジズセンターには、初代国王の遺品が展示されている他、当時のチャーチル英首相から贈られたロールスロイスが展示されている。

Ｃ．マスマク城

℡：４１１－００９１

木曜午後、金曜終日閉城。

開城時間　：　（午前）08:00～12:00　（午後）16:00～21:00

入城制限　：　土、月、水　→　男性

日、火、木　→　ファミリー

お祈り制限：　お祈り開始前迄に入場していればお祈りの間、中に居続ける事は可能。

マスマク城

リヤド奪回の舞台になった門

マスマク城は、現サウジアラビア王国（第３次サウード王国にあたる）の建国の父アブドゥル・アジーズ初代国王が、１９０２年にクウェイト亡命からアラビア半島統一に向け、最初の勝利を飾った場所である。マスマク城はサウード王家の半島征服のシンボルであり、アブドゥル・アジーズ初代国王の英雄伝説に欠かせない舞台である。

マスマク城の建設と当時のネジド地方の情勢

マスマク城は、１８６５年にアブドゥル・アジーズ国王の叔父にあたるリヤド領主アブダッラーが建設したものである。マスマクとは「厚い壁」を意味するアラビア語に由来し、その堅固な城壁作りを誇示している。当時のサウード家は、リヤドを支配する地方領主の地位にあり、近隣有力部族との争いが絶えず、また、マスマク城の領主であるアブダッラーの領主即位を巡るサウード家内での内紛が激しく、同家は弱体化していた。１８９１年、サウード家の宿敵であるラシード家はリヤドを攻撃、マスマク城も陥落し、年少のアブド

ゥル・アジーズを含むサウード家は１０年間、オスマン・トルコ配下のクウェイトに亡命を余儀なくされた。

マスマク城の奪回

クウェイト亡命から１０年後の１９０２年、成人したアブドゥル・アジーズは、わずか４０名の部下を従えてラシード家に対し挙兵した。同年６月１５日午前５時頃、砦から出てきた敵方城主アジュラーン（ラシード家の家臣）がマスマク城正門に達した時、アブドゥル・アジーズは単身、急襲をかけた。両名の一騎打ちの様子は、アブドゥル・アジーズの武勇伝の一つとして今日まで伝えられている。正門にはアブドゥル・アジーズの従兄弟である猛将ジルウィーがアジュラーンに向け放ち、外れた槍の痕が残っている。急襲を逃れ、城内に避難したアジュラーンは、ジルウィーによって斬り殺された。この戦闘はアブドゥル・アジーズの王国建国史を飾る最初の勝利であり、マスマク城の奪回により、サウード家はリヤドに帰還した。それから３０年、アブドゥル・アジーズはリヤドを中心に、アラビア半島の征服事業に邁進した。同城は、王国拡張期のアブドゥル・アジーズの宮殿として使用され、彼が征服した部族からの朝貢、反抗部族長の監獄や、友好関係にあった英国の将校をもてなす場としても使われた。その後、新たな宮殿（ムラッバ・パレス）へ移る１９３８年まで居を構えた。

マスマク城は、１９９４年に修復作業が完了し、１９９５年春から歴史博物館として一般公開されている。城内は、５つのセクションからなる。

Ｄ．アルファイサリアタワー

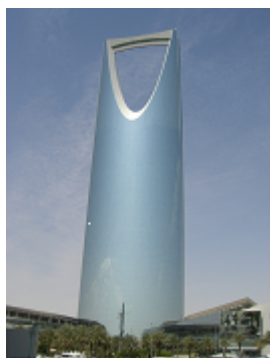
展望台利用可能時間　:　11:30～26:00　／　料金　:　ＳＲ３５

アルファイサリアタワー

アルファイサリアタワーは、２０００年５月１４日に完成した。キングダムタワーが完成するまでは、サウジアラビア王国内で最も高い建物であった。高さは地上２６７m。アルファイサリアホテル、ファイサリアモールと直結している。上方には、フレンチレスト

ランが入っている。

E．キングダムタワー

展望台利用可能時間　：　土、日、月、火、金　→　16:00～23:00
　　　　　　　　　　　　水、木　　　　　　　→　13:00～14:30、16:00～23:00
料金　　　　　　　　：　ＳＲ２５

キングダムタワー

キングダムタワーは、２００３年１０月１２日にオープンした。建物自体は、２００２年に完成し、高さ３０２ｍで、現在サウジアラビア王国内において、最も高い建物である。建物の所有は、キングダムホールディングス（アルワリードビンタラール殿下が代表）。建物の中には、フォーシーズンズホテルやキングダムモールの他、オフィスも入っている。展望台は９９階にある。７７階には、イタリアンレストランが入っている。

G．ディラスーク

金曜の午前は閉まっている。

民芸品を売る店

リヤドの旧中心地、Al-Adl 地区にある近代アラブ風市場。ゴールド、ホワイトゴールド、シルバーなどを扱っているゴールドスークが入っている。サウジダイヤもここで見ることができる。トーブ（男性が着ている白い服）やアバヤ（女性が身にまとっている黒い服）

も売っており、民芸品を売っているアンティークスークや中東、中央アジアの絨毯を扱うカーペットスークもある。マスマク城に隣接していて、公開処刑場も近くにある。

H．バトハスーク

旧空港通りの東、ディラスークと相対している雑多な市場。広範囲に渡る市場で、地区毎に、日用雑貨、衣類、香辛料、電化製品、自動車の部品等多種多様なものを売っている。値段は手頃で、特に外国人労働者が多く利用している。

（２）郊外

A．ディライーヤ遺跡

℡：４８６－２４３５

リヤド市内から片道約１５分。

遺跡への入口

遺跡の一部

ディライーヤと言う名前は、「盾」という言葉に由来する。ディライーヤは現在のサウード王国発祥の地で、１８世紀後半から１９世紀初頭にかけて繁栄した第１次サウード王国時の古都である（現在のサウード王国は第３次サウード王国と位置づけられる）。ディライーヤは現王国の２大基盤であるサウード王家支配とイスラーム改革運動（ワッハービズム）が邂逅した場所でもある。

ディライーヤの起源

サウード王家の祖先がディライーヤに定住したのは、１５世紀である。サウジ東部のカティーフ地方から中部のディライーヤに移住してきたサウード王国の祖先は、豊かな水源「ワーディー・ハニーファ」を利用し耕作地を増やし富を蓄え、有力地方部族としての地位を確立した。ディライーヤが村落から都市へと発展したきっかけは、領主ムハンマド・イブン・サウード（在位１７２６～１７６５）が１７４４年、ムハンマド・イブン・アブドル・ワッハーブによるイスラーム改革運動（ワッハービズム）を保護した事による。アラビア半島各地からワッハーブの新しい宗教的教えを学ぶためにディラーヤに集まる人々が増え、金や銀の両替商が軒を並べる商業拠点へと成長した。

トライフ地方

現在遺跡が残る「トライフ」地区は、サウード王家歴代の宮殿や大蔵省など行政機関が置かれたディライーヤの中心だった。トライフ地区は高台にあり、ディライーヤ全域を取り囲む城壁や、四方の見張り塔が見渡せる要衝であった。現存するものは、第１次サウード王国第４代領主のアブドゥッラー・ビン・サウード（在位１８１３～１８１８）とその兄弟９人のプリンス達の宮殿である。

ディライーヤ崩壊

第１次サウード王国の伸張を警戒したオスマン帝国は、傘下のエジプト軍をアラビア半島中央部に派遣し、エジプト軍は１８１８年、都ディライーヤを攻略、徹底的に破壊した。現在のディライーヤの遺跡の多くは、その当時のまま放置されている。エジプト軍の占領は１８２２年までの４年間続いたが、その後、サウード王家第６代領主トルキー・イブン・アブドゥッラー（在位１８２０～１８３４）は本拠地をディライーヤからリヤドに移し、第２次サウード王国を再興した。以降、サウード家の活動はリヤドで展開される事になり、ディライーヤの歴史的役割は終わった。

現在は、修復作業が進んでおり、一般公開されている。

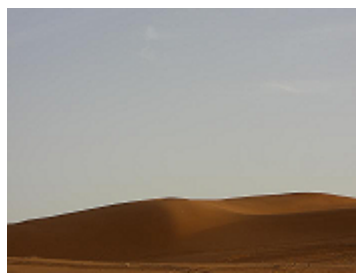
Ｂ．キャメルマーケット

リヤド市内から片道約３０分。

ランチタイム

ダンマンロードを４０kmほど東へ進むと、キャメルマーケットがある。マーケットには白、黒、茶色等いろいろな色のラクダが柵の中に飼われている。

Ｃ．赤の砂漠

リヤド市内から片道約４０分。

赤く見える砂漠

風化されてできた崖

メッカ道路を７０kmほど西へ向かうと、風紋のある典型的な砂漠が見られる。他の地域よりも酸化鉄を多く含んでいる為、赤く見えるこの砂漠の砂は、とても細かい。リヤドの位置する中央部のナジド（高地という意味）は広大な高原地帯で、リヤド付近の標高は約６００ｍあるため、赤の砂漠へ行く途中、５０kmほどを通過したあたりから一気に降っていく。

Ｄ．キャメルトレイル

リヤド市内から片道約３０分。

キャメルトレイル

涸れ川

赤の砂漠へ行く途中、脇道へそれて、土漠の中を進んでいくとリヤド高地の端に行き着く。そこから見下ろすと、一本の道がある。これがキャメルトレイルで、昔はこの道をラクダに乗って高台の上まで上ってきたことから、この名前がある。また、年に数回の大雨の時に川になった跡（涸れ川）も見ることが出来る。

１２．お土産リスト

（1）デーツ

ナツメヤシの実

デーツは１００ｇから

チョコレートがけデーツ

デーツはナツメヤシの果実で、北アフリカや中東を中心に広く栽培が行われている。その歴史は古く、メソポタミアや古代エジプトでは、紀元前６０００年代にはすでに栽培が行われていたと考えられている。実が熟するまでは、少なくとも６ヶ月はかかり、熟度に応じて様々な呼び名を持つ。色は、品種と熟度にもよるが、黄色から明るい赤色で、乾燥させたものは茶色っぽくなる。長期保存が可能で、乾燥地帯でも育つため、ベドウィンの重要な食料である。カロリーも１００グラムあたり２５０キロカロリーと高く、また新鮮なデーツには豊富なビタミンＣが含まれている。サウジアラビア王国は、エジプト、イランとともに、世界でも有数のデーツ生産国である。また、日本のトンカツソースやおたふくソースの中には、独特のとろみや甘みを出すため、デーツを使っているものもある。

お土産用としては、デーツ詰め合わせがＳＲ１１０程度からある他、

デーツ、デーツ入りクッキー　　ＳＲ６５～ＳＲ８０／kg程度　１００ｇから販売

アーモンドやオレンジピール、レモンピールを挟んだもの

ＳＲ９８／kg程度　１００ｇから販売

チョコレートがけデーツ　　ＳＲ１８０／kg程度　１００ｇから販売

デーツ蜜、デーツジャム　ＳＲ２５／本　　デーツジュース　ＳＲ１０／本

リヤド市内では、ＢＡＴＥＥＬ（キングダムタワー下のキングダムモール内、あるいはタラティーン通り沿い）や、ＫＩＮＧＤＯＭ　ＤＡＴＥＳ（オラヤ通り沿い）等で購入できる。

（２）シーシャ（水たばこ）

一般的なシーシャ

シーシャ（水たばこ）は、インドで発明され、イスラム圏に広がっていった喫煙具。基本的な構造は、専用の香り付けがされたタバコの葉に熱した炭をのせて、出てきた煙を底のガラス瓶の中の水を通して吸うというもの。水がフィルターの役割をして、大抵の不純物やニコチン、タールが水に溶けてしまうため、あまり強くは感じない。

大きさは、携帯用のもので３０ｃｍ程度のものからあり、大きいものでは１ｍを超える。本体価格の目安は、ＳＲ６０からＳＲ４００程度。

リヤド市内では、各スークやユーロマルシェ等で購入できる。

（３）キャメルボーン製品

大小様々

ディラスークをはじめとして、リヤド市内では、ラクダの骨でできたキャメルボーン製品を見つけることが出来る。大きなものから小物まである。価格は、小物がＳＲ１５程度からで、大きいものになるとＳＲ１０００近くするものもある。

（４）サウジダイア

ネックレス＆ピアス

サウジダイア原石

サウジダイヤは、デザートダイヤと呼ばれるものの一種で、サウジアラビア王国では、北西部の砂漠によく見られる。極めて珍しい半貴石で、成分的には水晶の部類に入るが、硬度は９～９．５度（水晶：７度、ダイヤ：１０度）、光の屈折率は天然ダイヤに近い。価格は、ネックレス、ピアスのセットで、シルバー製がＳＲ２００から。ゴールドやホワイトゴールド製になると、ＳＲ８００～ＳＲ１０００から。ディラスーク等で購入可。

（５）金製品

リヤド市内では、ディラスークやタイバスーク等のスークにあるゴールドスークで、金製品を見つけることが出来る。通常、店頭に並べられているものは、２２金や２４金のものが多いが、１８金を扱っている店もある。デザインは、派手なものが多い。アラブの国の金は比較的安いと言われることがあるが、価格は、基本的に金の国際価格に連動しており、加工料がヨーロッパや日本に比べて安価なために若干安くなるというだけである。

（６）原油入り置物

中には原油が入っている

サウジ産原油の象徴 Damman No.7 Light Crude Oil が中に入っている置物で、インターコンチネンタルホテル、マリオットホテルやラディッソンサスホテルの売店で取り扱っている。

（７）アザーン時計

モスクをかたどったもの

オフィス用

１日５回のお祈り（サラー）の時間を、アザーンの声と共に伝えてくれる大変有り難い時計。性能も良く、世界の１０００の都市に対応しており、またメッカの方向を知るために方位磁石が内蔵されているものもあり、世界中どこにいても、サラータイムを知ることが出来る優れもの。日本の都市では、東京と大阪が入っている。価格は、ＳＲ１００からＳＲ２００程度。リヤド市内では、ＥＸＴＲＡ等で購入できる。